

平成30年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

創立当初より掲げている School Mtto (スクール モットー)「Find a Way or Make One (見つけよう つくりだそう 明日への道)」のもと、「自らの手で明日への希望や目標を見だし、その希望(夢)や目標に向かって邁進する」生徒を育てる。特に「ステップ フォワード ～ 一人一人が『意欲』をもって～」を合言葉に、生徒と教職員とがともに、今在る所から未来へ向かって踏み出し、現状を目標に近づけるとい意志と意欲をもって物事に取り組む。生徒の育成に当たっては、以下の3つをめざす。

- (1) 高い志と意欲をもって、夢や目標や可能性に挑戦する精神を育むとともにそれらを達成するための環境作りを進める。
(2) 授業・行事・部活動に臨む際の集中力と自主性をより一層高める。 (3) 地域や社会に積極的に貢献し、信頼される人材を育成する。

そのため、学校総体として、充実した教育課程の中で生徒一人ひとりの学習意欲や基礎学力の向上、夢と志(目的意識)を持つ生徒の育成とキャリア教育の充実、部活動及び生徒会活動の活性化、地域連携・中高連携・高大連携の充実、規範意識や人権尊重意識の向上等を中心に「学校力」を常に全力で向上させることをめざす。

2 中期的目標

<p>1 「確かな学力」の育成と「魅力ある授業づくり」の推進</p> <p>(1) 新学習指導要領をふまえ、「わかる授業、充実した授業」「基礎学力の充実」をめざした授業改善に取り組む 公開授業、研究授業、校内研修、授業アンケートを効果的に活用した授業改善に組織的に取り組み、生徒が主体的に深く学ぶ授業を増加させ、「ICTを活用した授業」「生徒の表現力・発表力の向上」への取り組みについても研究を進める。学校教育自己診断における生徒の「ICTを活用した授業」生徒肯定率、70%、「生徒の表現力・発表力の向上」生徒肯定率55%をそれぞれ平成30年度、74%、58%、2019年度は77%、61%、2020年度は80%、65%以上をめざす。</p> <p>(2) 「確かな学力」の育成に必要な規範意識の醸成 ア 生徒全員が学校生活をスムーズに送るため校時を遵守する意識を高める。そのため、登校時に校門での一斉指導を継続する。また、授業開始時には着席指導を行うなど、授業規律の確立に全教員で取り組む。年間総遅刻数3300以下をめざす。そして2019年度以降も3300以下を継続する。 イ 校舎内外や教室の清掃・美化を徹底するとともに、授業環境のユニバーサルデザイン化を進め、学習が深められる環境を整える。</p> <p>※ 生活基本調査における生徒の「授業への満足度」(平成29年度66%)を毎年引き上げ、2019年度には70%、2020年度には73%を超える。また、学校教育自己診断等における生徒の「授業が分かりやすく楽しい」の生徒の肯定率(平成29年度64%)を引き上げ、平成30年度には67%以上を超え、2019年度以降70%以上、2020年度以降もその継続をめざす。</p> <p>2 夢と志(目的意識)を持つ生徒の育成とキャリア教育の充実</p> <p>(1) 学年を追うごとに進路目標と卒業後の職業観が深化する取り組みをホームルーム活動、総合的な学習の時間等を通じて教育活動全体で行い、キャリア教育の充実をめざす。 ※ 学校教育自己診断における「キャリア教育充実度(生き方や進路を考える教育)」の生徒の肯定率(平成29年度85%→30年度88%)を引き上げ、2019年度には90%を超え、2020年度以降90%以上の維持をめざす。</p> <p>(2) 生徒の希望進路実現への取り組み 生徒の希望進路の実現に向け、学年及び関係分掌で具体的な方策を検討し、実現する。 ※ 年度当初の4年制大学進学希望を維持させる指導及び確実な就職指導の体制のもと、生徒の希望進路実現率を平成30年度には、4年制大学93%(平成29年度91%)、就職100%(平成29年度100%)を維持する。2019年度以降もそれぞれ90%以上、100%を維持する。</p> <p>(3) 国際理解教育と英語教育の推進 ア 具体的な取り組みとして、平成26年度よりの他の府立高校と合同での国際交流研修を継続し、平成28年度6人、平成29年度4人。今後も5名以上の参加者を確保し活性化する。 イ 近隣の大学や地域への留学生と交流することにより、海外からの留学生との交流も視野に入れた国際交流を検討する。 ウ 生徒が実践的な英語力を向上させるために、英検またはGテックの受験を奨励する。H30年度は二つのテストを合計で70人以上。(平成29年度英検63人)、2019年度以降毎年80人以上の受験者数をめざす。</p> <p>3 部活動の活性化及びクラブ員のリーダーシップによる生活規律の向上</p> <p>(1) クラブ加入の促進並びに教員と生徒の生活の質の向上に取り組む ア 1年次当初の体験入部や仮入部等の取り組みを充実させ、クラブ加入を促進する ※ 1年生のクラブ加入率・退部率(平成29年度は順にそれぞれ73%、10%)を平成30年度にはそれぞれ80%以上、5%以下にし、2019年度以降、それら以上をめざす。 イ 部活動における練習の効率化を通じて、生徒及び教職員の生活の質の向上をはかる。</p> <p>(2) クラブ員及び生徒会のリーダーシップによる全校的な生活規律の向上に取り組む ア クラブ代表者会議や部活動集会をクラブ代表及び生徒会を中心に定期的に開催し、部長をはじめ、クラブ員の生活規律の向上の徹底を促す。 イ クラブ員が、生徒会と連携して、リーダーシップを発揮し、挨拶・遅刻・頭髪・服装・自転車通学マナー等について適正な状態を保ち、全校的な生活規律の向上につなげる。 ※ 学校教育自己診断における「生活規律」に関する項目の生徒・保護者の肯定率(平成29年度は順にそれぞれ77%、84%)をいずれも平成30年度には80%、87%以上をめざし、2019年度以降それを継続する。</p> <p>4 人権教育と教育相談機能のさらなる充実</p> <p>(1) 人権教育の充実を図り、年度ごとに時勢に即した内容をもとに計画に取り組み、人権意識の向上を図る。 ※ 学校教育自己診断における「人権教育充実度」の生徒の肯定率(平成29年度78%)を平成30年度には80%以上にし、2019年度以降もそれを継続する。</p> <p>(2) 教育相談委員会や特別支援委員会の機能とそれが行う研修をともに充実させ、障がいがある生徒や課題を抱える生徒への合理的配慮を行い、また、自立を支援できる体制をより一層確立する。 ア カウンセリングマインドをもって生徒に接することにより生徒支援について一層の徹底をはかる。 イ SCの延べ25回の学校訪問回数を確保するとともに、相談室の利用案内を生徒や保護者に周知徹底し、相談室の利用を促進する。 ※ 学校教育自己診断における「学校生活についての指導の納得」、「先生は生徒がいじめや困っていることに真剣に対応」「担任以外にも相談室等で気軽に先生やSCに相談することができる」の生徒の肯定率(平成29年度は順に74%、74%、81%)をいずれも平成30年度にはいずれも80%以上をめざし、2019年度以降はそれらを維持する。</p> <p>5 広報活動と地域連携の充実</p> <p>(1) 入試改革による影響を的確に把握しながら、学校説明会・中学校訪問と広報活動の充実を図り、地元中学校との相互連携も深める ア 学校説明会・中学校訪問については、地元地域を重視しつつ学区撤廃による影響を的確に把握しながら、中学校の意向や意見を反映できるよう工夫する。 イ 学校訪問と学校説明会、クラブ見学会の内容の充実に加え、地元中学校と地元地域の府立学校の連携会議の導入をはかる。 ウ ホームページ、メールマガジン、校内掲示、配付物等を通じて保護者、生徒、中学生に大冠高校の情報と魅力をより効果的かつ継続的に発信し、理解を深める ※ 平成29年度から立ち上げた地元中学校と地元地域の府立学校の連絡会議に参加するとともに中学校訪問の範囲・回数の維持によって、地域との連携を深めるとともに学校説明会・見学会等への参加者数を増加させそして志願者の増加につなげる。</p> <p>(2) 地域連携の取り組み 授業、クラブ、生徒会等において、地域との積極的に交流機会を増やし、本校の教育活動についての理解を深めてもらう。 ※ 学校教育自己診断における地域貢献に関する項目の生徒の肯定率(平成29年度58%)を平成30年度には63%以上にし、2019年度には67%以上をめざし、2020年度には70%をめざす。</p>	
--	--

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成30年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>(全体として)</p> <p>○肯定率3%以上アップ項目数: 生徒10/28、保護者1/26、教職員 3/36となった。 肯定率3%以上ダウン項目数: 生徒1/28、保護者0/26、教職員26/36。 基本的な項目、生徒の「学校へ行くのが楽しい」79→82%、保護者の「子どもは学校へ行くのを楽しみにしている」84→85%となり、向上している。</p>	<p><u>第1回学校運営協議会(6月1日)</u></p> <p>① 学校経営計画について ・部活動と学習の文武両道ができており、バランスの良い学校である。 ・大冠高校の正門付近が寂しい、部活動でがんばっているところをもっとアピールしてほしい、 ・広報が学校を活性化させる。外への発信がもっとできればほしい。</p> <p>② 授業見学をして</p>

府立大冠高等学校

<p>今年度の課題としては、教職員からの評価向上が見られなかったことである。 (学習指導)</p> <p>○生徒の生活基本調査「授業への満足度」は 66.4→69.6% でやや上昇。 自己診断生徒の肯定率は「授業が分かりやすく楽しい」 64→67% とやや上昇、「発表の機会がある」の 55→56%、「ICTを使う機会がある」 70→73% と微増。と先生方の授業改善によって肯定率がやや上昇している。ICTの活用に関しても、先生方の使用の伸びが見られるが、先生方の負担を減らすためにも機器末設備の充実をはかりたい。 「実験・実習等の授業の取り組みがある」については 43→50% とかなり上昇。更なる授業の進化を求めて、次年度は指導法の研修に努めたい。また府教委へ機器の充実をお願いしていきたい。</p> <p>○「学習評価の納得」に関しては、生徒 81→88% と上昇。保護者は「テストやその他を含む多面的評価」 81→83% となり、生徒の「評価及び学習形態の多様化」についても各々 80→85%、55→56% と上昇、微増した。観点別評価についても研修を進め、生徒の実態・ニーズに沿った評価を進める必要がある。 (生徒指導及び進路指導等)</p> <p>○自己診断における肯定率、「生活規律」に関する項目、「先生の指導への納得」生徒 74→77% で上昇、保護者 84→83% で微増。生徒の「基本的生活習慣の確立に力」 77→81% と上昇したが、懲戒件数は 0→10 と激増してしまった。以上から生活指導は「生活は正指導」から、「生徒の自己効用感」の醸成への転換の必要性を考察すべき時期に来たと考えられる。</p> <p>○進路指導においては、生徒肯定率「進路や生き方を考える」 85→89% と上昇、「進路について適切な情報提供」 84→86% と微増、保護者肯定率「進路や職業の適切な指導」 83%(変化なし)と引き続き高い評価を得た。</p> <p>○生徒会・部活動については、生徒肯定率「学校行事参加の工夫」 83→85% と微増、「部活動に積極的に参加」 85% と変化なし、「生徒会活動の活発さ」 71→73% となった。保護者肯定率「学校行事参加の工夫」 94→93%、と今年も高い評価を得た。</p> <p>○人権に関しては、生徒肯定率「人権の大切さを学ぶ機会」 78→82%、「いじめへの対応」 74→80% と上昇。保護者の「人権意識を育てる指導」 80→79%、と高い評価を得たが、教員の「人権尊重、指導について教職員ではなしあっている」は 79→71% となった。教職員の忙しさのため、話し合う時間が確保出来ていなかったのであろう。生徒・保護者からの高い評価に今後も満足せず、啓発に努め、教員の時間の使い方についても検討したい。 (学校運営)</p> <p>○「校長は学校を良くしようとしている」(昨年度より)生徒肯定率 83→69%、保護者 87→83%、教職員 89→76% と低下、求心力の回復が求められる。</p> <p>○「地域との交流について」生徒 58→64%、保護者 88→91%、教員 66→67%、活動の周知について校内的なコミュニケーションや周知方法改善の必要性がある。</p> <p>○「防災教育について」は生徒 81→85→80→88% となった。今年度自然災害もあり、重点的取り組んだものの1つなので情報提供がうまくなされ、認知度が高まったものと思える。</p> <p>○教育活動については、保護者「教育方針の伝達」 85→82%、「きめ細かな意思疎通」保護者 80%→85%、教職員 89→78% など肯定的な回答が多かった。</p> <p>○今年度の後期に重点的取り組んだものの1つである「清掃の状況」については生徒 35→52→59→51→58%、教職員 29→21→36→47→34% となった。次年度も引き続き、重点項目として清掃の徹底を進めたい。</p> <p>○広報活動肯定度「HPとメルマガの利用度」が教職員 90→86% と減少したが、保護者 44→49→57% と上昇している。しかし、保護者の数値が低いので、その認知度向上と利用促進のため取り組みを促進する必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・先生方の工夫を感じた ・先生と生徒の一体感があった。 ・ICT活用し、元気があって先生の一所懸命さがとても伝わる授業出あった。 <p><u>第2回学校運営協議会(11月12日)</u></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 学校経営計画の進捗状況、資料などより <ul style="list-style-type: none"> ・専門の先生にとっては、クラブ指導を積極的にやりたいだろうと思うので、活動時間を減らすことは難しいのではないだろうか。 ② 授業見学をして <ul style="list-style-type: none"> ・授業の目標、振り返り、ストップウォッチの使用、掲示物のせいりなどの取り組みを通じて、学習環境を整えているのが感じられた。 ・ペアワークなどを取り入れ、生徒に寝る間を与えないで授業に参加させることができている。 ・先生方のそれぞれの工夫が感じられる。グループワークを取り入れて大変良かった。 ・先生と生徒の掛け合いがよい ・情報で互いに教え合うことが出来ていて良かった。 ・体育館の1階から2階へあがる場所をもっときれいにしてほしい。 <p><u>第3回学校運営協議会(1月29日)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・校長のリーダーシップのもと、学校が活性化されていると思う。 ・保護者の理解が高いのは、家で大冠の取組、大冠での充実感を生徒が話しているからだと感じられる。 ・生徒の学校への肯定感が高いのも大冠がうまくいっているからだと思う。 ・保護者、生徒への信頼がある学校だと思う。 ・クラブ以外に色々な取り組み(地域交流、国際交流、特色ある学校行事 など)をされているのだから、クラブ以外に特化して、アピールをもっとされればいいのではないか。 ・広報活動をもっと工夫するのも手ではないか、たとえば、授業、ボランティア、行事など、ビデオをとって、流すなどしたら、大冠のよさがよりわかりやすくアピールできると思う。 ・クラブ活動以外の強みをもっとうちだすとよいのではないか。 ・クラブも盛り上がりながら、他の事も盛り上がり、「クラブも、他の事も…」となれば、学校がさらに盛り上がるのではないか。 ・使える英語なども取り組んでほしい。 ・英語検定「何級、何人合格」など、目標を掲示し、それに向かって取り組むというのもいいのではないか。 ・卒業生に国際交流で活躍されている人と生徒との交流、もしくは、講師として話してもらおうなど、アピールする方法も考えていってはどうか。 ・国際交流をされているので、スカイプなどでオンタイム交流をしてみてもどうか。 ・色々な取り組みを重ねて実績をつくり、予算要求などもされていくとよい。・清掃は年々行き届いていると思うが、校長先生は気にされているようだ。一年中きれいに掃除をするのは無理だとしたら、「清掃週間」などを作り、徐々にきれいに掃除をする、きれいな環境がととのっていくという実績をつくっていってはどうか。 ・遅刻指導に対して、延べ人数だけでなく、遅刻が習慣化している生徒などの把握につとめ、きめ細やかな指導も必要ではないか。・遅刻指導にしても「遅刻0週間」を作って、教員全員で取り組むなどしてはどうか? →いい成果が上れば、生徒も先生もモチベーションが上がるであろう。 →さらに大冠がよくなっていく。 ・2年生はどこでも、中だるみなのだが1年生の授業アンケートの結果が下がっているのは、授業に不足を感じているのではないか? ・授業改善にしても、今年行われた取り組みはもちろんよいのだが、しゃべり場などで、先生の中での授業のいいところ、うまくいったところなどを出し合って、GOODポイントを共有し、モチベーションをあげるのいいのでは? →「WIN、WIN」でさらに授業改善につながる。 ・授業改善については粘り強さを持って進め、さらに「better than before」となるよう、お願いしたい。 ・校長先生がおっしゃっているように「チーム大冠」というようなキャッチフレーズをつくり、教員、生徒ともにモチベーションを上げ、外へ向かっての発信もされたらどうか。 <p>☆学校運営協議会の方たちの意見をきいての来年度の課題</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 授業改善研修の在り方(4月・5月段階で教員同士の研修、授業見学を行う) ② キャッチフレーズを作り、大冠の生徒・教員が大冠(チーム大冠)として意識して活性化できるようにする。 ③ 広報活動の工夫を行う(ビデオ作成、生徒主体の広報活動など) ④ 遅刻指導、清掃指導については「〇〇週間」という形で小さな取組から始める ⑤ 英語教育の改善(使える英語、資格英語への取り組み)
---	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

本年度の取組内容及び自己評価 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
進	<p>1 「確かな学力」の育成と「魅力ある授業づくり」の推進</p> <p>(1)「わかる授業、充実した授業」「基礎学力の充実」をめざした授業改善への取り組み ア 生徒の主体的な学びを実現するための授業改善の取り組み イ 公開授業を活用した授業改善の推進 ウ ICTを活用した授業の推進</p> <p>(2)「確かな学力」の育成に必要な規範意識の醸成 ア 登校時に校門での一斉遅刻指導を継続する。 イ 校舎・教室内外の清掃・美化による環境整備と授業環境のユニバーサルデザイン化</p>	<p>(1) ア・指導教諭と若手教員が主となり、有志教員や生徒も参加した授業研修を行い、充実したものとす。 ・授業改善に資するための教員の校内研修を充実させる。 イ 公開授業(4月、6月、11月)を活用し、教員・保護者・生徒の3者からの意見を集約し、授業改善を推進する。 ウ ICT活用等を活用するなど生徒の授業アンケートの「授業内容に、興味・関心を持つことができた」「授業内容に、知識・技能が身に付いたと感じている」の項目のレベルアップをはかる。</p> <p>(2) ア 生徒指導部を中心に輪番体制で毎日、校門での一斉遅刻指導及び身だしなみ指導を行う。 イ 日々の清掃活動の徹底をはかり、学習環境を整えかつ授業時の環境のユニバーサルデザイン化を行う</p>	<p>(1) ア・授業研修の取組状況についてホームページに掲載。 ・校内研修の毎学期実施、年3回以上。 ・「自分の考えをまとめ、発表する授業」肯定率 60%(平成29年度 55%) イ・公開授業(授業研修含む)のコマ数 70以上。 ・生活基本調査における生徒の「授業への満足度」 70%(平成29年度 66%)、自己診断における生徒の「授業が分かりやすく楽しい」の生徒の肯定率 67%以上(平成29年度 64%)。 ウ・自己診断における「授業へのICT活用の機会」の生徒の肯定率 73%(平成29年度 70%)。</p> <p>(2) ア・年間遅刻合計回数 3300以下。(平成29年度 3465) イ・「清掃が行き届いている」生徒・教員それぞれ 60%以上、50%以上(平成29年度 51%、47%)</p>	<p>(1) ア・授業研修の取組状況についてホームページに掲載。(◎) ・校内研修実施 7, 10, 12, 1月に実施。(◎) ・「自分の考えをまとめ、発表する授業」肯定率 56%(△) イ・公開授業(授業研修含む)のコマ数 80回以上実施。(◎) ・生活基本調査における生徒の「授業への満足度」 67%、自己診断における生徒の「授業が分かりやすく楽しい」の生徒の肯定率 67%。生徒が主体的に参加できる授業を増やし、肯定率をさらに上げたい。(△) ウ・自己診断における生徒の「授業へのICT活用」 73%。さらなる授業への活用を検討したい。(○)</p> <p>(2) ア・年間遅刻合計 3133。(◎) イ・「清掃が行き届いている」生徒・教員それぞれ 58%、37%(△)。清掃の徹底をはかり、きれいな学校をめざしたい。</p>

府立大冠高等学校

2 夢と志（目的意識）を持つ生徒の育成とキャリア教育の充実	<p>(1) キャリア教育の充実 学年を追うごとに進路目標と卒業後の職業観が深化する取組みに実施</p> <p>(2) 生徒の希望進路実現への取組み ア 進学指導方策の検討 イ 具体的内容の検討</p> <p>(3) 国際理解教育と英語教育の推進 ア 国際理解教育活動の継続 イ 今後の方向性の提示 ウ 英検受験の奨励</p>	<p>(1) 進学も含めた将来の生活設計を考えるため、1年時よりキャリア教育の充実を図る。</p> <p>(2) ア 進路指導部と学年が協同し、計画的な進路講習を計画するなど、3年間を見据えた進学指導のさらなる充実を図る。 イ 生徒の希望進路の実現に向け、担任及び教科で具体的な方策を検討し、充実を図る。</p> <p>(3) ア 国際交流研修の推進として、近隣の府立4校合同でオーストラリア交流研修を継続・充実をはかる。 イ HPや文化祭等での発表を充実させる。 ウ 英検受験を推進し、必要な生徒には合格のための補講を行う。</p>	<p>(1) ・自己診断における「将来や進路について考える機会」の生徒の肯定率 87%以上。(平成29年度 84%)。</p> <p>(2) ア 生徒の希望進路実現率を4年制大学90%以上(平成29年度 91%)とし、就職100%(平成28,29年度 100%)を維持する。 イ 「集中勉強会」の参加生徒増及び内容の充実。3回実施。のべ生徒参加者 550人以上。(平成29年度 510人)</p> <p>(1) ア 語学研修の参加や内容の充実を図る。参加者5人以上の維持。参加校全体での研修と成果発表会を実施する。 イ 派遣先での交流をHPで公開するとともに文化祭等で発表し、公開する。 ウ 校内会場受験を実施し、70人以上の英検及びGTEC受験者を確保する。(平成29年度英語検定受検者 63人)</p>	<p>(1) ・自己診断における「将来や進路について考える機会」の生徒の肯定率 86%。昨年度から2%の上昇があった。(△)</p> <p>(2) ア 生徒の希望進路実現率を4年制大学をはじめとする進学実績 86%就職率 100%を現在維持。進路全体の満足度 96.6%進学実績(△)、就職率(◎) イ 「集中勉強会」年4回実施。参加生徒増及び内容の充実。参加者のべ人数 360人。生徒の要望に応え、勉強会を1回増やした(○)が、第1回の勉強会は地震の後で学校も不安定な状況の中での開催だったので、昨年より大幅に参加人数が減り(228人→158人)引き続きの人数も減ったものと思われる(△)</p> <p>(3) ア 語学研修の参加や内容の充実を図る。参加者4人。参加校全体での研修を実施した。(△) イ 派遣先での交流をHPで公開するとともに文化祭等で発表し、公開した。(○) ウ 英語検定からGTEC受験に切り替えた、大幅に受験者減(今年度は6人)(△)</p>
3 部活動の活性化及びリーダーシップによる生活規律の向上	<p>(1) クラブ活動の活性化 ア 1年次当初のクラブ加入促進の取組み イ 指導者の確保と校内での重点クラブの指定 ウ 活性化策と活動の効率化の検討</p> <p>(2) クラブ員及び生徒会のリーダーシップによる生活規律の向上 ア 生徒自ら生活規律の向上を図る方策の検討</p>	<p>(1) ア・1年次当初の体験入部や仮入部等の取組みを充実させ、クラブ加入を促進する。 イ・部活動代表者会議による重点クラブの指定や会議内容の広報に努め、部活の活性化に努めるとともに人的及び予算面で配慮し、効果をあげる。 ウ 活性化策(退部率の減小案)及び部活動の練習の効率化を検討</p> <p>(2) ・クラブ員が、生徒会と連携して、リーダーシップを発揮し、挨拶・遅刻・頭髪・服装・自転車マナー等について適正な状態を保ち、全校的な生活規律の向上につなげる。</p>	<p>(1) ア・1年生のクラブ加入率、退部率をそれぞれ80%以上、5%以下(平成29年度 73%退部率 10%) イ・予算の傾斜配当と活動場所の最適化を行う。 ウ・部活動集会での生徒要望を集約するとともに部活動の効率化を校内で論議する。(各学期1回計3回以上実施の継続と教員間での論議の開始)</p> <p>(2) ・部活動集会等において、生徒による生活規律の向上を検討する。自己診断における「生活規律」に関する項目の生徒・保護者のいずれも肯定率85%以上(平成29年度は77%、83%)を達成する。</p>	<p>(1) ア・1年生のクラブ加入率、退部率をそれぞれ68%、7.7%(△) イ・予算の傾斜配当と活動場所の最適化を行った。特に体育館系クラブに配当。(◎) ・熱中症対策、自然災害修復など重点配当を行った(◎) ウ・クラブ代表者会議(部活動集会)を各学期実施。(○)</p> <p>(2) ・クラブ代表者会議(部活動集会)等において、生徒による生活規律の向上を検討。自己診断における「生活規律」に関する項目の生徒・保護者のいずれも肯定率81%、83%。(△)</p>
4 人権教育と教育相談機能のさらなる充実	<p>(1) 人権教育の改善と充実 ア 本校として時勢に即した人権教育計画を策定と改善・充実</p> <p>(2) 教育相談委員会や特別支援委員会の機能のより一層の充実 ア 教職員へのカウンセリングマインドの周知と徹底 イ SCの相談日回数確保及び相談室の案内と利用の促進</p>	<p>(1) ア・人権教育企画委員会(略して「人企委」)の議論を活性化し、本校として時勢に即した年間計画を策定し、今年度は、「自尊感情の醸成」をテーマに実践する。</p> <p>(2) ア・カウンセリングマインドをもって生徒に接し、生徒一教職員相互の信頼関係強化を一層徹底する。そのための情報共有をはかる。</p> <p>イ・SCの相談室の利用案内を生徒や保護者に周知徹底し、相談室の利用を促進する。</p>	<p>(1) ア・自己診断における「人権教育充実度」の生徒の肯定率80%以上。(平成29年度 78%) ・自己診断における「人権教育取組み充実度」の教職員の肯定率80%以上。(平成29年度 79%)</p> <p>(2) ア・自己診断における「教育相談体制充実度」生徒の肯定率84%以上。(平成29年度 81%) イ・SCの教育相談内容を研修や個別相談により充実をはかり教職員で情報共有し、かつSCのべ25回相談日を継続する。</p>	<p>(1) 人権教育の改善と充実 ア自己診断「人権教育充実度」の肯定率 ・生徒82%(◎) ・教職員71%。(△)</p> <p>(2) 教育相談委員会や特別支援委員会の機能のより一層の充実 ア・自己診断における「教育相談体制充実度」生徒の肯定率85%(◎) イ・SCの教育相談内容を研修や個別相談により充実をはかり教職員で情報共有し、かつSCのべ23回相談日。(△)。</p>
5 広報活動と地域連携の充実	<p>(1) 学校説明会・中学校訪問や広報活動の充実 ア 学校説明会・中学校訪問の充実と連携会議の導入 イ 広報内容の充実 特にHP継続的な更新及び配付物による教育活動の公開</p> <p>(2) 地域連携の取組み 授業、クラブ、生徒会等における地域連携への取組みの強化</p>	<p>(1) ア・入試改革による影響を的確に把握しながら、地元高槻を中心に枚方方面の中学校の意向や意見を反映できるよう工夫する。 イ・広報活動を効果的なものにするためのコンテンツの充実を図り、またHPの更新に努め、本校の教育活動を公開する。</p> <p>(2) 授業、クラブ、生徒会等において、地域との交流機会を増やすとともに、HP、紙媒体、校内外での掲示等での広報に努め、本校への理解を深めてもらう。</p>	<p>(1) ア・第1回学校説明会への参加者数300人以上の維持。クラブ見学会の継続及び学校見学会のあわせて3日以上実施。(平成29年度 340人、第2回学校説明会 227人。部活動見学会・学校見学会あわせて3日実施)。地元中学校と府立学校の地域連携会議の2回参加。 ・入学実績をもとに高槻市を中心に枚方、寝屋川までの中学校への訪問をのべ60校以上を継続、中学校の要望を聞き取り、反映する。教育産業への働きかけものべ20校以上を継続する。 イ・HPを担当するため教職員のチームで内容充実と年間60回以上の更新を継続する。</p> <p>(2) 自己診断における地域貢献に関する項目の生徒の肯定率63%以上(平成29年度 59%)。</p>	<p>1) ア・自然災害の影響で学校説明会での体育館でのクラブ体験が出来ず、希望者減学校見学会の3日間5回実施。地元中学校と府立学校の連携会議を2回実施し連携を深めた。(◎) ・入学実績をもとに高槻市を中心に枚方、寝屋川までの中学校への訪問をのべ70校以上実施、中学校の要望を聞き取り、連携調整。教育産業への働きかけものべ20校以上を継続。(◎) イ・HPを担当するため教職員のチームで内容充実と年間のべ140回更新。(◎)</p> <p>(2) 自己診断における地域貢献に関する項目の生徒の肯定率64%。(◎)</p>